

情勢報告（平成26年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

JA 津野山シシトウ部会・ナス部会反省会



JA 津野山シシトウ部会とナス部会の反省会が2月4日に開催され、シシトウ部会では14名、ナス部会では12名の生産者が参加しました。

シシトウ部会では振興センターから、昨年夏期の高湿・少雨によって露地シシトウに発生が多かった青枯病の対策や、甘長トウガラシの誘引方法等について説明しました。甘長トウガラシ生産者からは、栽培管理について考えを深める内容であったという声がありました。

ナス部会では、土着天敵（タバコカスミカメ）を利用したアザミウマ類防除についての実証の結果と、実証ほでも問題となったコナカイガラムシ類の防除対策などについて説明しました。米ナス生産者からは、アザミウマ類の防除に土着天敵を利用してみたいという声が聞かれました。

野生鳥獣害対策実地講習会



1月28日、須崎市浦ノ内立目において11名の地区民が参加し、野生鳥獣被害対策の実地講習会が開かれました。

この会は来年度、防護柵の事業を導入するかどうかを検討するために開かれた講習会です。取り組むかどうかは3月の地区の総会で検討されることになりました。

今回の参加の呼びかけは市が行い、実地指導はJAと振興センターが行いました。参加した地区民からは、「いがいと楽やね。」、「これならできる。」といった前向きな声が聞かれました。

芳生野営農生産組合通常総会



2月16日、津野町芳生野において芳生野営農生産組合の第5期通常総会が開催されました。

今期については、経営の安定化を目指して園芸品目の栽培面積を54a（雨除け米ナス36a、露地ショウガ18a）に規模拡大し（H22年度設立当初栽培面積の約2.5倍）、一定の売上をあげました。今後、労力を確保して基幹品目における栽培管理の遅れを解消することや補完品目として露地品目を導入することを行なっていきます。

JA 土佐くろしおミョウガ部会現地検討会



ミョウガ部会の現地検討会が2月中旬から、管内の各地区で順次開催されています。2月17日には多ノ郷地区、19日には浦ノ内地区で開催され、それぞれ25名、45名が参加しました。

振興センターからは、日射比例制御装置による給液管理について紹介しました。また、調査によって判明してきたヒートポンプ加温機の特長や、より効率的な設定方法について情報提供を行いました。

日射比例制御装置については特に質問が多く、「天候を見ながら自分で灌水回数を調整しなくて済むのはメリットがある。」などの声が参加者から聞かれました。

第2回農業改良普及推進協議会



2月18日、本年度2回目の農業改良普及推進協議会を須崎市立市民文化会館で開催し、農家と関係機関を併せて12名の委員が出席しました。

25年度の普及活動の報告の後の意見交換では、「環境制御技術は、振興センターと検証を重ね、足元を固め慎重に進める。」、「中山間地域の基幹品目である露地野菜や茶への支援をお願いする。」などの意見が委員からありました。次年度の普及指導計画にこれらを反映します。

JA 土佐くろしおハウスシシトウ部会現地検討会



ハウスシシトウ部会の現地検討会が2月7日に開催され、18名が参加しました。

振興センターからは、今年度の現地試験の経過報告や今後の栽培管理等について説明しました。その中でも、CO₂施用試験に興味を示した生産者は多く「CO₂を施用してこれ程の樹ができるのなら導入してみたい。」との声が出ていました。

試験はまだ途中段階であるため、今後も継続して調査を行っていきます。また、結果については、データ等を十分に分析して、次年度の栽培勉強会や現地検討会等で提供する予定です。